

メビウスのレポート

特定非営利活動法人メビウス千葉 活動報告 令和2年秋号 2020年11月08日発行



天高く馬肥ゆる秋となりましたが、メビウス千葉会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。日頃から、私たちの諸活動に対するご理解・サポート・見守り等、あたたかいご支援を賜り誠にありがとうございます。また、前回のレポート発行から丸一年、間があいてしまいました事、心よりお詫び申し上げます。今後とも、引き続きご支援・ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願いたします。

新型コロナ・ウィルスによる緊急事態宣言下でのメビウスの様子。

2020(令和2)年4月7日(火曜日)、千葉県を含む7都道府県に緊急事態宣言が発出され、16日(木)には、その対象が全国にまで拡大しました。それを受け、私たちも4月2日(木)から、いわゆる3密状態を避けるために、朝のミーティングをそれぞれ10人前後に分ける3部制で行うようになりました。もちろん、出席前の手洗いと検温、出席中のマスク着用、終了後の除菌、部屋の換気なども徹底しました。その他では、食堂での食事の際の人数制限や、電車やバスなどの公共交通機関の利用は控える、下総精神医療センターでの受診は職員の代行(受診者本人に特変が無い限り)など、これまでの生活様式を変更して対応しました。

その宣言を受け、メビウス千葉のプログラムの1つ、月・金曜日の週2回行っている株式会社マイベジタブルでのミニトマトの収穫作業が中止となりました。また、他の事業所へ通所していた寮生も数人いたのですが、それも当面は見合わせとなりました。私たち寮生にとって、この柱ともいべき週2回のプログラムができないという事態は、回復への手段を1つ失ってしまうという事であり、大きな痛手でした。寮生のある1人は、これにより時間を持て余したことから、残念ながら問題行動を再発させてしまい、下総精神医療センターに再入院となってしまいました。

そのような状況の中、なにかそれに代わるプログラムをと考えていた時、寮生の中にパソコンに詳しい者が2人いたので、彼らの能力を活用しようと、2人を講師としたパソコン教室を開講しました。3台のパソコンを用意し、1人当たり週2回、各1時間の受講スケジュール。もちろん3密状態を避けるために、1コマ3人までの受講というスタイルにしました。

授業内容はそれぞれのレベルに合わせ、初心者からは起動の仕方から始まり、基本的なパソコンの操作方法やタイピング。中級者以上はオフィスソフトのワードで様々な文書の作り方、エクセルでは関数を学んで様々な統計表等の作り方をはじめ、高度な者はホームページ作成のためのプログラミングなどです。

初めは「私にはパソコンのスキルは必要ないから…」と、興味なさそうに受講していた寮生もいましたが、その講師2人の工夫により、徐々に興味を示し、自ら教えてほしいことをリクエストしたり、空いた時間に独学する者も出てくるほどになりました。

当初はトマトの収穫作業が再開するまでの期間限定プログラムだったのですが、その再開後もレギュラーのプログラムとして、講師役の寮生が変わり、他の活動の再開に伴い時間も1人週1回、1時間と変わりましたが、現在でも継続しています。朝のミーティング出席時の衛生ルールやその他の生活様式変更も、今では当たり前のように定着しています。

まだまだ終着点のはっきりしないこのコロナ禍、皆様も今までは違う生活習慣を余儀なくされていると存じます。その1つ1つをこれまでの日常生活にプラスしたり、それを文字通り当たり前の“習慣”化したり、もしくは代替案を模索し続けていくことが、このコロナ禍という未曾有の事態への対処法なのかな、とメビウスでは考えるに至りました。

新しい寮生が増える一方、再入院も…。

メビウス動静報告 2019(令和元)年10月～2020(令和2)年9月



2019年10月

- 寮生の1人の裁判があり、施設長の鈴木が情状証人として出廷しました。
- 新規入寮が2名、そのうち1名は痴漢、もう1名は窃盗症(クレプトマニア)で、いずれも男性です。また、男性1名の体験利用がありました。新規寮生はいずれも職員同伴のもと、社会内擬似を開始しました。
- 中旬には大型台風19号が各地に甚大な被害をもたらしました。幸いメビウス千葉での被害はありませんでしたが、ミニトマトの収穫作業が2週間中止になるなど、活動に影響がありました。
- 寮生の1人が自己判断で就職し、働き始めました。

2019年11月

- 寮生の1人が下総精神医療センターを退院しました。また、先月体験利用した入院中の男性が退院し、入寮しました。
- 先月自己判断で働き始めた男性が、自主退寮しました。
- 事務所の鍵がなくなる、車両の鍵が無断で持ち出されるなど、管理に問題が見られました。
- ストーカーの男性がミーティング後に所在不明となり、警察に保護され翌日帰寮しました。
- 月末にはフリーマーケットに出店し、創作活動の作品を販売しました。

2019年12月

- 女性が3名入寮しました。うち2名は摂食障害および窃盗症、1名は睡眠薬の乱用です。
- また、受刑中だった男性の1人が出所し再入寮しました。
- 女性1人が下総精神医療センターを退院したほか、長期入院中の女性が年末年始に試験外泊で病院から一時的に帰寮しました。女性寮生が増加する中、女性同士の喧嘩などがありました。
- 男性寮生の1人が下総精神医療センターの外来作業療法の利用を開始しました。女性利用者の娘さんがメビウスを訪れ、食堂を手伝ってくれることができました。

2020年1月

- 先月入寮した摂食障害の女性1人の栄養状態が悪く、3日間点滴を受けました。
- 新たに窃盗症の男性が1人入寮しました。
- ストーカーで自宅からミーティングのみ参加していた男性が、寮生の女性に大量のLINEを送り、個人情報やSNSに載せていたことが判明しました。男性は再入院し、身の危険を感じた女性は自主的に避難し結果的に退寮となりました。
- 数人の寮生が居酒屋に行き、その中には飲酒をしてはいけない寮生が含まれていました。
- インフルエンザの集団予防接種を行いました。

2020年2月

- 昨年妊娠し退寮した女性が、相談に訪れました。出産後、子どもは児童相談所に保護されていたようです。メビウスへの再入寮を希望しなかったため、その後の支援を継続することができませんでした。
- 物質使用障害の男性が1人、摂食障害および窃盗症の女性が1人入寮しました。
- 寮生の1人が飲酒と処方薬の乱用によって再入院しました。
- ミニトマトの収穫量が増加し、午後数人が残って作業を行いました。
- 前年の台風15号により被災した南房総市富浦町の復興作業に、寮生4人がボランティアとして参加しました。

2020年3月

- 12月に入寮した女性の1人が窃盗のため逮捕されました。女性はそれまでも盗品とみられる大量の物品をため込んでいましたが、本人は部屋の前に不法投棄されていた等と説明したため、ごみとして処分したこともありました。その後女性は再入院しました。
- 寮生の男性1人が失踪し、後日就職したため自主退寮すると連絡がありました。
- 寮生の女性が再入院したほか、スーカで再入院していた男性が退院しました。

2020年4月

- 新型コロナウイルスの影響により、緊急事態宣言が発出される中、8人の新規入寮がありました。うち男性4人、女性4人、嗜癖行動は薬物、アルコール、窃盗、わいせつ、スーカ、ギャンブルなど様々です。
- 寮生の1人が別の施設へ転入するため退寮しました。
- 裁判のため月初めから拘留されていた寮生が実刑となり退寮しました。
- 先月窃盗で再入院した女性が退院しましたが、本人の意向で家に帰り、事実上退寮となりました。
- 窃盗の社会内擬似を行っていた寮生が、擬似中に実際に窃盗を犯してしまい、事情聴取後に釈放となりましたが、その店舗ではメビウス千葉の関係者は出入り禁止となり、擬似に付き添っていた寮生も参考人として聴取を終日受けるなど、リスクが浮き彫りになりました。

2020年5月

- 先月入寮した寮生のうち1人が、多弁・多動が激しく再入院しました。
- 新型コロナウイルスの影響により、外部の事業所への通所が自粛となる中、時間を持て余した寮生の1人が問題行動を再発してしまい、再入院しました。幸い数週間で退院しましたが、そのような事例が増えることを懸念して、PC教室を開講することになりました。
- 性犯罪の男性1人、窃盗症および摂食障害の女性1人の入寮があったほか、先月入寮した女性の1人が自主退寮しました。人数が増加する中、新しい寮であるアネックスに男性3人が引っ越ししました。

2020年6月

- 緊急事態宣言が解除され、外部事業所への通所が再開され始め、マイベジタブルの活動も再開されました。
- 通所は感染リスクを避けるため、公共交通機関の利用を避け、車で送迎を行っています。
- 先月退院した男性が再入院したほか、男性寮生の1人が窃盗のため再入院しました。
- 体調を崩していた寮生の1人が、受診を拒否して行方が分からなくなり、事実上退寮となりました。
- 男性寮生の1人が痴漢行為のため逮捕され、再入院しました。

2020年7月

- 3人の女性寮生が、自動車免許取得のため教習所に通い始めました。
- 男性寮生が1人入寮しましたが、実刑判決により数日で退寮しました。そのほか男性1人が入寮しました。
- 5月に入寮した男性が、実刑判決により退寮しました。
- メビウスに3年ほど在籍していた男性寮生が、金銭管理を拒み、徐々にミーティングに出席しなくなり、実質的に退寮しました。そのほか女性寮生の1人が自主退寮しました。
- 女性1人が3日間の体験利用をしましたが、入寮に至りませんでした。
- 5月頃から、食堂の食材や本部居住者の私物食品の盗難が続いていましたが、対策として食堂の冷蔵庫に鍵をかけるようになりました。

2020年8月

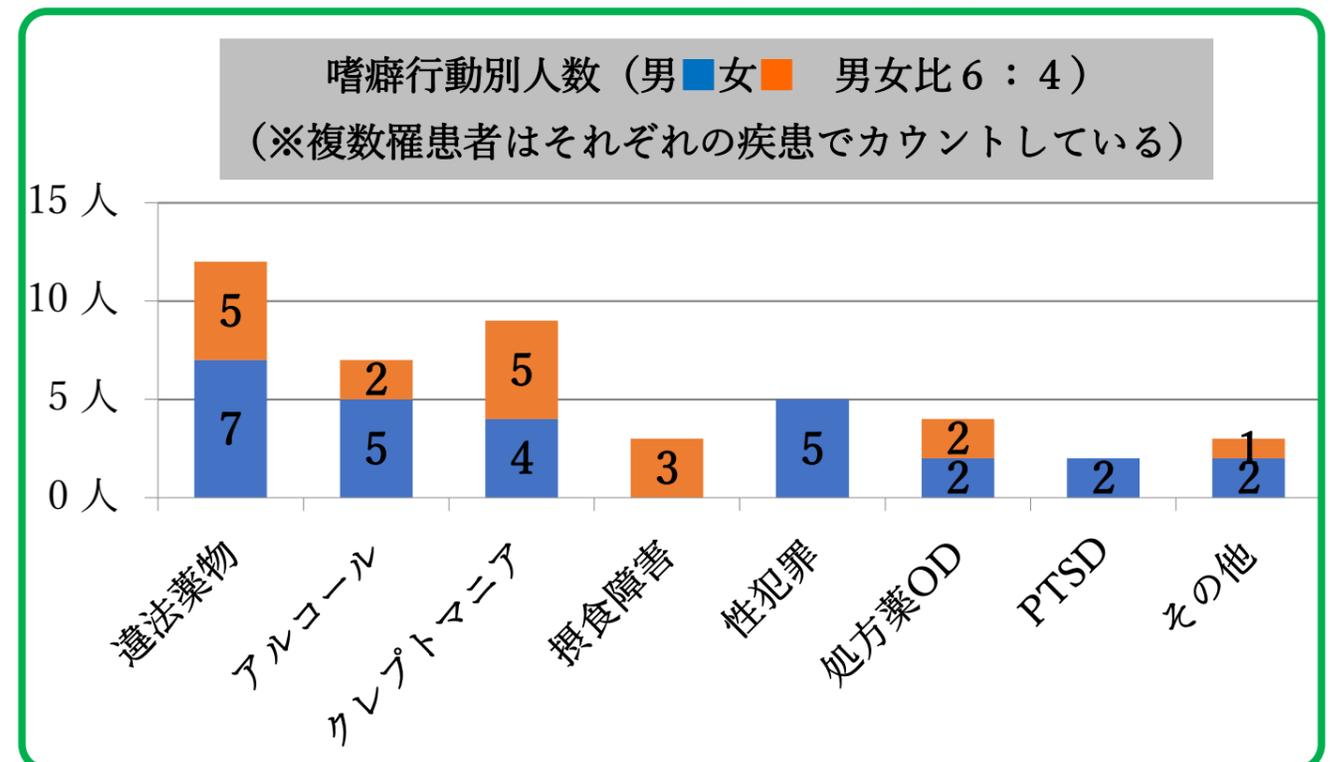
- 窃盗症および摂食障害の女性が入寮しました。
- 外出自粛が続く中で、寮生たちの気分転換を図るため、稲毛海岸でBBQを行いました。準備や当日の進行など、実行委員会を中心に協力し、無事に開催することができました。
- 男性利用者1人の行方が分からなくなり、実家の近くで入水自殺を図ったと警察から連絡がありました。幸い命に別状はなく、下総精神医療センターに再入院しました。
- 女性寮生の1人が摂食障害と飲酒のため昏睡状態となり、救急搬送され再入院しました。
- PTSDの女性が深夜に錯乱状態となり、救急搬送され再入院しました。
- 痴漢行為のため再入院していた寮生が退院しましたが、すぐに再犯し逮捕され、再入院しました。
- 男性寮生1人が就職のため自主退寮しました。

2020年9月

- 女性寮生の1人が試験外泊の後、退院しました。男性寮生が1人入寮しました。
- この2人は、以前メビウスを利用し、就職し退寮しましたが、その後調子を崩したため再入寮となりました。
- 男性寮生の1人が他の寮生からもらった処方薬を服薬し、ふらふらしていたため再入院しました。
- 数名の寮生が外部の通所型事業所を見学、体験を行いました。
- 窃盗のため6月に再入院した男性が退院しました。
- 女性1人が刑務所を出所後入寮し、翌日下総精神医療センターに入院しました。

嗜癖行動別人数。

※2020（令和2）年9月末現在
在籍者35名（入院中含む）



回復への道のり。

クレプトマニア編



クレプトマニア(窃盗症)及びその合併症として多い摂食障害に関しては、過去の2019(平成31)年1月20日発行のAfter Autumun 号にて、特にメビウスでどのような治療継続支援を行っているかについて既出ではありますが、メビウス千葉においてそれに該当する寮生が増えてきている現状に鑑みて、今一度「クレプトマニア(窃盗症)」について、そもそものような精神疾患なのか、条件反射制御法ではどのような治療をしているのか、そしてメビウス千葉ではその治療継続支援としてどのようなサポートをしているかについて触れてみたいと思います。

まずその前に、既にご存じの方もいらっしゃると思いますが、改めて「衝動の制御の障害」とは、そもそものような状態を指すのかを振り返りたいと思います。

WHO(世界保健機構)の定義には、「精神に作用する化学物質の摂取や、快感・高揚感を伴う行為を繰り返した結果、さらに刺激を求める抑えがたい渴望が起こる。その刺激を追求する行為が第一優先となり、刺激がないと精神的・身体的に不快な症状を起こす状態。」であるとされています。

ここで①摂取と②行為という言葉が出てきました。①は例えばアルコールや薬物(合法・非合法、または市販薬・処方薬も含む)です。これは一般的に「物質依存」と表現されます。②は例えばギャンブル、買物、自傷行為、そして今回取り上げる万引き(クレプトマニア)などです。こちらは「行為・プロセス依存」と表現されます。それらに加えて、(広義的には②に含まれるかもしれませんが)アメリカで1980年代に誕生した「人間関係依存」というものがあります。代表的なものとしては共依存、DVなどの望ましくない人間関係です。

これらの衝動の制御の障害は表面的には違えど、同じようなメカニズムで発症していることが多く、同時に2つ以上の行動嗜癖を持つことが少なくありません。ちなみに、クレプトマニアの女性は摂食障害を併発していることが多いといわれています。

①のアルコールや処方薬・市販薬などの適度な摂取、または②のギャンブルや買物などを適度に行うことは、心身に負担がかかることではなく、法に触れることでもありません。しかし、①の非合法薬物摂取や②の万引きは、心身に大きな負担がかかり、即座に犯罪行為となってしまう危険をはらんでいます。特に万引きには明確な被害者が存在し、自分自身だけではなく他者をも傷つけてしまいます。今回取り上げるクレプトマニアは、逮捕されなければ変わらない一方で、逮捕だけでは変わらないという難しさがあるのです。

それではクレプトマニアとはどのようなものなのか。『DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル』(日本精神医学会 医学書院 2014)による診断基準は以下の通りです。

- 個人的に用いるためでもなく、またはその金銭的価値のためでもなく、物を盗ろうとする衝動に抵抗できなくなることが繰り返される。
- 窃盗に及ぶ直前の緊張の高まり。
- 窃盗に及ぶときの快感、満足、または解放感。
- その盗みは、怒りまたは報復を表現するためのものではなく、妄想または幻覚への反応でもない。
- その盗みは、素行症、躁病エピソード、または反社会性パーソナリティ障害ではうまく説明できない。

クレプトマニアというのは上記の診断基準にもある通り、端的に言うと「お金があるのに盗んでしまう。」「盗む時のスリルが

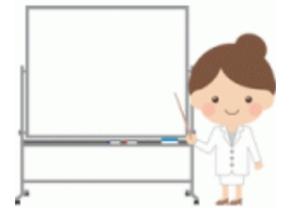
欲しい。」「盗む対象物は必ずしも自分の欲しい物ではない。」「常習性がある。」というような障害です。それらを踏まえて、「窃盗の為の窃盗」と言われています。

ただ、この診断基準のAとDの「怒りまたは報復を表現するためのものではなく」という文言に関しては、その臨床に携わる様々な医療関係者から、狭義的に適用することに対して、懐疑的な言説が多数聞かれます。つまり、個人的に用いるために盗ったり、または何らかのストレスを強いてきた他者への怒りや報復の発露としてもあり得るということです。これは犯罪白書のデータでも明らかになっています。

おそらく、「職業的窃盗犯や貧困により万引きを繰り返す層を、この依存症の臨床から除外するため」だと考えられています。(『万引き依存症』 斉藤章佳 イースト・プレス)

そこで、その診断基準に加えて、クレプトマニアの治療・回復に長年注力している赤城高原ホスピタルの竹村道夫院長の経験によると、より具体的に以下のような特徴があげられています。(※竹村道夫・吉岡隆編集 『窃盗症クレプトマニア—その理解と支援』 中央法規出版 2018。)

- 窃盗の手口として、9割が万引き。
- ほぼ全例が単独犯。
- 経済状況や社会的地位からみて、「リスクに見合わない窃盗犯罪」を繰り返している。
- 万引き行為以外には反社会的行動がない。
- 職業的犯罪者ではない。
- 窃盗症道のスイッチが入ると、自力で中断することが難しい。
- きわめて再犯傾向が強い。
- 生理的、心理的飢餓感をもっていることが多い。
- 摂食障害など、他の精神障害を合併することが多い。
- 罰金や服役などの罰則では、ほとんど更生しない。
- 治療前には病識がない。
- 専門的治療によって回復できる。



窃盗を犯してしまう時の通常の動機としては、「その物が欲しいけど、お金が無いから、または節約したいから。」といったような利益目的のみであると、一般的には考えられていると思います。かくいう私も、盗みをはたらく人は全てそのような動機からだと思っていましたし、このメビウス千葉にお世話になるまで、クレプトマニアという精神疾患に関しましては全然知りませんでした。おそらく、世間的にも薬物やアルコールやギャンブル等の依存症より圧倒的に認知度が低いのではないのでしょうか。

クレプトマニアという病名は古くからあるものの(アメリカの判例では1901年に初出)、治療体験と研究の蓄積が他のその行動嗜癖の中で最も少なく、実態の解明や医療及び司法的サポートが比較的遅れているのが現状です。男女比では女性の方がやや多い傾向で、その合併症として多くみられる摂食障害とセットになると、女性の方が圧倒的に多くなります。

ではここで本題です。メビウス千葉ではどのようなサポートを行っているのでしょうか。

まず、基本的なサポートとして「おまじない」と呼ばれるキーワード・アクションと、イメージの中において窃盗を繰り返していたころの行動の詳細を思い返す「想像作業」の確実な実行を義務づけます。それらの各回数は回数票に毎日記録させ、朝のミーティング時にチェックします。

その上で、本人は「擬似作業」と呼ばれる、実際に窃盗を行う動作を擬似的に社会内の実店舗(コンビニ、スーパー、ドラッグストア等)で、決められた回数を同行者の監督のもと行っています。具体的にその「擬似作業」がどのように行われるかというと、店舗に備え付けの買い物かごを持ち、店内の商品棚の間を歩き回り、適当な商品を1つ取り、しばらくまた同じように

店内を歩き回った後、その商品を元の棚に戻すというものです。

この1度手に取った商品をまた元に戻すという一連のアクションは、普段の買い物でも普通にやることだと思います。リアルに近い疑似作業であるなら、自前のバッグやポケットなどに隠してから戻すという方が効果的ではないかと考えられますが、そのような疑似作業を実店舗で行うことには店側の理解と協力が不可欠であり、現時点では困難であると言わざるを得ません。

一見無駄な行動に思われますが、この行動が淡々と作業として繰り返されることによって、その行動に興味がなくなり、欲求が生じなくなるところが条件反射制御法の特徴です。最近では、裁判においても、このような治療継続の取り組みが徐々に認められつつあり、社会内での治療を第一とした執行猶予を受けるケースも増えています。しかし残念ながら、裁判で有利になるために渋々やっているという動機の者も少なからずいます。

クレプトマニアの傾向として再犯率が比較的高く、また、摂食障害を併発している者も多く、身体的なケアを必要とする者もいることから、今後も医師や司法関係者、近隣店舗との連携のもと、より効果的で包括的なサポートをメビウスでは模索し続けてまいります。

最後に、東京大学先端科学技術研究センター准教授の小児科医・熊谷晋一郎氏の言葉を紹介します。

「自立とは、依存先を増やすこと。」いうまでも無く、自分も他者も傷つけない健全な依存先という意味だと思います。条件反射制御法の維持作業の継続によって、望ましくない行動の欲求を低減させると同時に、様々な活動を通して望ましい行動、望ましい人間関係を1つでも多く見つけ出せるようにサポートすることが、メビウス千葉の社会的使命であると考えています。



条件反射制御法学会に寮生の1人が参加しました！

2020年9月26日(土)に開催された条件反射制御法学会に、寮生の1人がオブザーバーとしてリモート参加いたしました。その彼に感想と特に印象に残ったことを聞いてみました。

☆学会に参加しての感想☆

このメビウス千葉において、自分自身の治療経験から、自分のため、またはほかの寮生のために出来ることを自分なりに一生懸命考えてやっていたつもりでしたが、それぞれの専門家のお話を聞いて、自分はまだまだ様々な面まで至らぬ点がまだまだあると思い知らされました。今後はこの経験を活かし、今一度、条件反射制御法を勉強し直し、自己研鑽、また他の寮生たちのサポートに励みたいと思いました。

☆学会の中で特に印象に残ったこと☆

前野隆司先生(※慶応義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科教授)による、ロボット工学及び脳科学の視点から、条件反射制御法の第1信号系と第2信号系を、意識と無意識に置き換えたお話と、人は考えて(感情)から行動するのではなく、行動に対して考え(感情)が後付けになる場合もあるというお話が、大変興味深く、勉強になりました。参加する前は、学会における大学院の教授のお話という事で、正直、自分に理解できるのかなと不安だったのですが、とても軽妙な語り口で、自然と理解できました。

なお、今回は学会初めてのウェブ会議ツールの『ZOOM』というソフトを使用してのリモート開催でしたが、事前に入念にテストをしていたため、本番では特に問題なくスムーズに進行したそうです。

新施設『アネックス』の紹介。

※アネックスとは別館、離れという意味。



この施設は以前から「出雲大社 千葉総国講社」として、毎年元旦に施設長自ら神主となり、最上階のお社にて初詣のお祓いをしていただく場所として、寮生たちには馴染みのある場所でした。

それが移転となったために、新たな寮としてメビウスがお借りすることになりました。

2020(令和2)年5月25日(月)より寮生が入居し始め、9月末の時点で3人の寮生が共同生活しています。将来的には6人前後の入居を予定しており、部屋増設のための工事も予定されています。

他のメビウスの入居施設に比べて、新しくて広々としており、また買い物にも便利な立地の快適な居住空間として、入居している寮生には概ね好評で、他の施設に入居している寮生からは、羨望のまなざしで見られています。



この1年を振り返って。

編集後記



この1年を振り返って、第一に、寮生の人数が増えたこと、行為の障害(薬物・アルコール以外の性犯罪・窃盗等)の寮生が増えたことから、寮内の雰囲気はこれまでと変わったように感じました。特に摂食障害および窃盗の寮生たちは、警戒心が強く、本当のことを言わないため、関係作りが難しいと感じられました。

第二に、社会内疑似のための付き添いや、再犯防止のための買い物同行、盗品とみられる物品の処分など、その行為の特性に合わせた対応に、これまで以上にマンパワーが必要と感じられました。

これまでもメビウス千葉では、受診の送迎ドライバーやミーティングの司会、食堂の調理など、寮生たちが役割分担を行い運営してきました。それが自助グループの特徴であり、責任感や自立、回復に向けた訓練となっています。

しかし、自分とは違う行動の特性を持った寮生たちに対する理解や、治療に携わる部分(疑似の同行など)には責任が伴い、それらの対応に精神的負担を感じるが多くなりました。社会内疑似中の再犯に関して、同行していた寮生が事情聴取を受ける事例も発生しており、再犯の可能性があることを前提に、今後は周辺の店舗に理解を求めていく活動も必要と感じられました。(※群馬県の赤城高原ホスピタルや都内大田区の大森榎本クリニックでは、その近隣店舗の理解と協力を得ています。)

第三に、寮生同士が加害者・被害者になってしまう事例が発生していることがあげられます。ストーカーの男性が寮生の女性にストーカー行為を行った例や、窃盗症の場合、寮生の間で被害に遭うことも少なくありません。再発の可能性があることを前提に受け入れを行っているため、個人個人が自衛することが求められていますが、発生した際に被害者が泣き寝入りし、加害者が守られるばかりでは、加害者側に罪の意識が育まれないのではないかと感じました。

筆者はメビウスに6年在籍させて頂き、様々な人との関わりの中で、自分に何が出来るのか模索しています。寮生は専門家ではありませんが、どんな専門家もはじめてから専門家だったわけではありません。正直もう関わりたくないと関係を断ちたくなる時もありますが、逃げ出すことのできない環境の中で、他者と関わり続けることは、気づきの連続でもあります。人は、どんなタイミングで成長するかわかりません。それは、自分自身のことも、他者のことも同じです。変わることを期待せず、しかし諦めず、失敗してもとにかく続けること、継続することです。

メビウスの利用者全てがスタッフ的な立ち回りをするわけではありませんが、これからもメビウスでの生活を続けていくことには、今まで以上に覚悟が必要だと感じた一年でした。